

都市再生整備計画事業 事後評価シート

天空の城があるまち竹田地区

平成29年5月

兵庫県 朝来市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県	市町村名	朝来市	地区名	天空の城があるまち竹田地区			面積	600.0 ha
交付期間	平成24年度～平成28年度	事後評価実施時期	平成28～29年度	交付対象事業費	525百万円	国費率	0.4		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名							
		基幹事業	道路(市道立雲峡線改築事業) 公園(山城公園整備事業、大手門公園整備事業、立雲峡公園整備事業) 地域生活基盤施設(サイン整備事業) 高質空間形成施設(竹田城遊歩道線整備事業、城山線整備事業)						
	提案事業	地域創造支援事業(水路整備事業、竹田城跡等歴史文化遺産調査事業) 事業活用調査(事業効果分析)							
	当初計画から削除した事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
		基幹事業	道路(市道虎臥城線改築事業)	観光客増加による車両通行の安全性確保のため、道路事業を行う計画であったが、対面通行から一方通行に変更、一般車の乗り入れを禁止、公共交通機関のみ乗入させるといった道路交通の見直しを行ったことにより、今計画で事業実施の必要性がなくなったため、当該計画から削除			影響なし		
		基幹事業	道路(市道城山久世田線改築事業)	スマートインターチェンジの設置に向けた取付道路の計画があったが、接続する道路交通の見直しにより、スマートインターチェンジが不要となったことから、当該計画から削除			影響なし		
		基幹事業	道路(県道溝黒竹田線改築事業)	兵庫県が事業を実施することとなったため、当該計画から削除			影響なし		
		基幹事業	地域生活基盤施設(ポケットパーク)	事業実施による長期通行止めを避けるため、当該計画から削除			影響なし		
		基幹事業	高質空間形成施設(虎臥城線整備事業)	観光客増加による車両通行の安全性確保のため、道路事業を行う計画であったが、対面通行から一方通行に変更、一般車の乗り入れを禁止、公共交通機関のみ乗入させるといった道路交通の見直しを行ったことにより、今計画で事業実施の必要性がなくなったため、当該計画から削除			影響なし		
		基幹事業	高質空間形成施設(観音寺山登山道整備事業)	動線等の変化により整備の必要性が低下したため、当該計画から削除			影響なし		
		基幹事業	高質空間形成施設(モニュメント整備事業)	他事業で実施することとなったため、当該計画から削除			影響なし		
		基幹事業	高質空間形成施設(竹田城跡照明整備事業)	他事業で実施することとなったため、当該計画から削除			影響なし		
		提案事業	地域創造支援事業(城山線改築事業)	観光客増加による車両通行の安全性確保のため、道路事業を行う計画であったが、対面通行から一方通行に変更、一般車の乗り入れを禁止、公共交通機関のみ乗入させるといった道路交通の見直しを行ったことにより、今計画で事業実施の必要性がなくなったため、当該計画から削除			影響なし		
		提案事業	地域創造支援事業(竹田城跡周辺環境整備事業)	他事業で実施することとなったため、当該計画から削除			影響なし		
		提案事業	地域創造支援事業(交通システムの研究)	スマートインターチェンジの設置に向けた取付道路の計画があったが、接続する道路交通の見直しにより、スマートインターチェンジが不要となったことから、当該計画から削除			影響なし		
		提案事業	まちづくり活動推進事業(まちづくり活動支援)	他事業で実施することとなったため、当該計画から削除			影響なし		
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(山城の郷公園整備事業)	増加傾向にある観光客に対応するとともに、魅力的な景観の形成によるまちづくりを推進するため、山城の郷公園整備事業を追加			公園事業を追加し、魅力的なまちづくりを行うことで地区内来訪者滞在時間の増加が期待されることから目標値を上方修正。滞在時間2時間以上の割合22%→24%に修正。		
		基幹事業	地域生活基盤施設(山城の郷駐車場整備事業)	増加傾向にある観光客に対応し、交通渋滞の緩和を行うため、駐車場整備事業を追加			地域生活基盤施設事業を追加し、魅力的なまちづくりを行うことで地区内来訪者滞在時間の増加が期待されることから目標値を上方修正。滞在時間2時間以上の割合22%→24%に修正。		
		基幹事業	高質空間形成施設(竹田城歩道線整備事業)	増加傾向にある観光客に対応し、安全・安心な登山道を確保するため、竹田城歩道線整備事業を追加			影響なし		
		提案事業	無し						
交付期間の変更	当初	—	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—			
	変更	—							

	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
		単位	基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	わだやま観光案内所利用者数	千人/年	15	H22	20	H28		40	○	あり なし	わだやま観光案内所の利用者数が大きく増加したのは、平成18年に100名城の指定を受けたことや歴史・山城ブームの中で、映画・テレビCM等で竹田城跡が全国区になった事が主要因であるが、都市再生整備計画事業(アクセス道路・登山道の改善、駐車場・公園整備等)を実施したことにより、急激に増大する竹田城跡観光客の「安全・安心かつ円滑な観光」を可能としたことも、利用者数増大に大きく寄与したと考えられる。	—
	指標2	住民のまちづくりへの参加度	人/年	52	H22	92	H28		141	○	あり なし	知名度の高い観光地ではなかった竹田城跡が、一躍全国区となり、観光客が年々増大する中で、竹田のまち中の雰囲気(人や車の往来等)も大きく様変わりした。こうした中、地域住民の従来からの郷土愛や祭り文化が原動力となり、観光客に対する「おもてなし意識」が高まり、「外部を意識したまちづくり」への参加意欲が増大していった。住民意識の大きな変化の流れと合致し、多くの地域住民と協働による事業展開が実現出来た。	—
	指標3	来訪者の地区内滞在時間、2時間以上の割合	%	10	H22	24	H28		87	○	あり なし	都市再生整備計画事業(アクセス道路・登山道の改善、駐車場・公園整備等)の実施により、「大人数の観光客を受け入れる体制」が整い、観光に対する安心感(トイレや駐車場の心配の解消)が確保され、「竹田城跡以外にも竹田の町なかも散策してみよう」という観光客が増え、観光客の回遊性が高まったことにより、2時間以上の滞在時間割合が上昇したものと考えられる。	—
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	未実施					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	竹田地区まちづくり推進協議会及び竹田ビジョン会議の定例開催					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● 事業終了後も竹田のまちづくりについて、積極的な活動や議論が行える場が必要。		
	持続的なまちづくり体制の構築	竹田地区まちづくり推進協議会及び竹田ビジョン会議の定例開催の継続					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● 地元住民主体の持続的なまちづくりを推進するため、市も継続して情報提供等による支援を行っていく。		

様式2-2 地区の概要

天空の城があるまち竹田地区(兵庫県朝来市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値			
大目標: 竹田城跡を核とした魅力あるまちづくり 目標1 歴史的景観及び自然景観を活かした観光交流による地域の活性化 目標2 安全・安心で魅力ある地域の創出	わだやま観光案内所利用者数 単位: 千人/年	15	H22	20	H28	40	H28
	住民のまちづくりへの参加度 単位: 人/年	52	H22	92	H28	141	H28
	来訪者の地区内滞在時間、2時間以上の割合 単位: %	10	H22	24	H28	87	H28

まちの課題の変化

平成24年頃から映画・インターネット・テレビCM等により、竹田城跡が一躍全国的な知名度となった。これに合わせるかのように、竹田城跡への観光客が平成23年度は98千人、24年度は237千人、25年度は507千人、26年度は582千人となり、数万人から数十万人の観光地へと変貌を遂げた。しかしその反面、観光客の増加に伴い、マイカーや観光バスが急増し、竹田城跡への安全な誘導対策、交通対策、駐車場対策等の早急な対応が課題となった。併せて、急激な観光客の増加に対し、トイレや公園など憩いの場も不足していたため、竹田城跡での滞在時間が少なく、経済波及効果が乏しいとの指摘も受けた。こういった状況から大人数の受け入れ可能な施設整備が喫緊の課題となったため、都市再生整備計画事業を導入することにより、アクセス道路・登山道の改善、駐車場・公園整備等を実施した。結果として、大人数が安心して観光できる観光地として、最低限必要な基盤整備が完了したことにより竹田城跡の観光客が竹田のまちなかや立雲峡等へも足を運ぶようになった。このような状況の中、地元住民にも「おもてなし意識」や「観光地としての自覚」が芽生えてくるようになり、まちづくり活動への積極的な住民参加等にもつながった。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

今後は、観光客の滞在時間の更なる増大を図るため、竹田城跡、竹田まちなか、立雲峡等の周遊観光コースの提案や、空家等を活用した飲食・交流・宿泊施設等の開発に取り組む。また、観光地づくりへの意識が高まった地域住民が、今後も自主的かつ持続的なまちづくり活動を実施できるように、今後も、竹田地区まちづくり推進協議会、竹田地域ビジョン会議等の開催を継続する。なお、他事業になるが、基盤整備後の質的改良(道路美装化の面的拡充・サイン整備・住宅修景整備)等にも継続して取り組む。